

研究・調査報告書

報告書番号	担当
379	高崎健康福祉大学薬学部細胞生理化学研究室
題名（原題／訳）	
<p>Effect of naltrexone and ondansetron on alcohol cue-induced activation of the ventral striatum in alcohol-dependent people. アルコール依存症者でのアルコールによる腹側線条体の活性化に対するナルトレキソンとオンダンセトロンの効果</p>	
執筆者	
Myrick H, Anton RF, Li X, Henderson S, Randall PK, Voronin K.	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
Arch Gen Psychiatry. 65(4): 466-475 (2008)	
キーワード	
アルコール依存症、ナルトレキソン、オンダンセトロン、線条体、ドパミン神経	
要旨	
<p>アルコール依存症治療のための薬物療法は現時点でまだ確立しているものはない。神経画像処理法による評価は、どの薬物療法がアルコール依存の治療に効果的であるか予測するために有効であると考えられる。本研究は、ナルトレキソン、オンダンセトロンあるいは両者の併用がアルコールに対する欲求や腹側線条体の活性化に効果を有するか検討した。この為、アルコール探索欲求試験を行っている間の機能的脳画像解析を行った。</p> <p>参加者は募集広告の後、一般社会から集めた90人のアルコール依存症者と17人の社会的飲酒（付き合い酒）者（週に14単位の飲酒量以下）である。主要な実習病院と医学実験研究所で核磁気共鳴画像解析を行い評価した。介入処置としては、無作為化二重盲検法でナルトレキソン（50mg/日）（23名）、オンダンセトロン（0.5mg/日）（23名）、両者の併用（20名）、対照プラセボ（24名）を7日間処置した後、欲求への引き金（cue）としてアルコールの味覚、一連のアルコール関連画像、非アルコール性飲料画像、対照画像を被験者に見せ、腹側線条体の脳血中酸素レベル依存（BOLD）核磁気共鳴画像解析で、アルコール関連画像と非アルコール飲料画像を見ている時の差異についてグループ間で比較した。</p> <p>結果は、ナルトレキソンとオンダンセトロンは各々単独処置でアルコール探索欲求を減少させたが、両者の併用処置はより効果的にアルコールへの欲求を低下させた。</p> <p>結論として、ナルトレキソンとオンダンセトロン併用は腹側線条体でのアルコール刺激性ドパミン神経出力を低下させるという動物実験での結果と一致して、ヒトでもナルトレキソンとオンダンセトロンはアルコール誘導性の腹側線条体の活性化を減少させ、これらの薬物はアルコール依存症の薬物治療として有効であることが見いだされた。</p>	